

世界的有名なルーマニア作曲家エネスクへの讃歌

マリアナ・ニコレスクと若い音楽家によるエネスクの歌曲紹介 (愛知万博にて)

ジェオルジェ・エネスクというルーマニアの作曲家の「リード独唱用歌曲全集」を世界初演したのはルーマニアで有名なコンクールの若い受賞者である。そのコンクールは、ブラショフで行われるルーマニア・リード全国大会とブライラで行われるハリクレア・ダルクレという国際歌唱コンテスト。二つともソプラノのマリアナ・ニコレスクにより開かれた。そのため、マリアナ・ニコレスクはルーマニア文化に大切な役割を果たしているといえる。

初演の大成功に続き、9月始めに愛知万博にて、マリアナ・ニコレスクは若い音楽家や仲間と共に、エネスク作曲「リード全集」を演奏する予定である。

今年にはエネスクの没後50年であり、それを記念して行われるこのイベントは、ルーマニアの偉大な作曲家への讃歌になるだろう。

共演は、ソプラノのミハエラ・マキシム、マルタ・サンドゥ、オアナ・セベリン、メゾソプラノのイウリア・メルカ、バリトーンのフロリン・エステファン、ボグダン・ミハイ、テナーのティベリウス・シム、ピアニストのアレクサンドル・ペトロヴィチ。海外でも、没後50周年にちなんだコンサートが開かれる。

マリアナ・ニコレスクは日本の舞台でさまざまなオペラの役を演じており、日本では非常に有名なソプラノである。例えば、ヴォルフカング・スワリシ指揮、ミュンヘンオペラの巡回公演の際には、モーツァルトの「ドン・ジョヴァニ」のドナ・エルビラの役を、東京公演ではベルディの「シモン・ボカネグラ」をバリトーンのレナト・ブルソンと共演、また、そのCD録音を行ったり、モーツァルトのオペラ「イドメネオ」の世界初演ではエレットラの役も演じている。カソリン・ベトルやプラチード・ドミンゴと共にCMにも出演。ミラノスカラ座、ニューヨークのカルネギーホール、モスクワの音楽院ホールやブカレストのアテネと言われる芸術振興会（エネスクのリード「ラグイル・メ・フェ」が繰り返して歌われた）などで、惜しめない拍手を浴びた。